

『ドイツ語』

第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

1 前 文

今年度は新教育課程で高等学校3年間学んだ受験者が主に受ける初めての共通テストであり『ドイツ語』の受験者は96名であった。一昨年に続き100名を切ったが、ここ数年は100名前後で推移している。英語での受験者と比較すると少数であることには変わりはない。

実施年度	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7
受験者数 (人)	147	116	109	118	116	109	108	82	101	96
平均点	130.92	128.66	136.83	152.21	147.9	119.25	124.26	123.8	130.95	127.24

英語以外の外国語の授業は、学習指導要領に「英語に準ずる」としか記載されていない。ドイツ語には検定教科書は存在せず、教科書も様々でありCEFRに準拠したもの、従来からある文法を中心としたものなどから授業担当者が教材を選択する。受験者はその教材でドイツ語の学習を進めることになる。

共通テスト『ドイツ語』の到達目標の1つがB1ならば、授業コマ(50分)数は3年間で約310必要である。英語の半分程度の授業コマ数しかないドイツ語で、このレベル設定が適切かは議論する必要があるのではないか。ドイツ語学習をめぐる状況は多様であり平均的なドイツ語学習者を想定しづらくはあるが、ドイツ語を「高等学校で3年程度継続して学んできた」受験者と仮定し、評価を行っていききたい。

なお、評価に当たっては、21ページに記載の8つの観点により、総合的に検討を行った。

2 内 容・範 囲

昨年度と比較し大問が1つ減、設問数も3問減の48問となった。昨年度まであった発音・アクセントに関する知識を問う出題がなくなった。特定の場面や状況に応じた会話や長文など、受験者には今まで以上に幅広く学び、正確な知識が求められる出題である。

第1問 出題形式が一新され困惑した。設問に取り組むには、初めに文の内容を理解し、各番号にどの品詞が入るのか見極め、品詞に応じた適切な選択肢を①～⑨の中から選ぶ。本文が「インターンシップへ応募するための問合せメール」でありややフォーマルな文体なので見慣れない語句が多い中、動詞の意味・時制・変化、前置詞、人称代名詞などを明確に区別できなければならない。総合的文法能力を問うているのかもしれないが、品詞の選択や変化の確認など細かな点に気を配る必要があり受験者が何を問われているのか理解をして、問いに取り組み始めるまでにかかなり時間を要するのではないか。この問い方では設定された場面が生かされていない。

問1 与えられた選択肢には2つ使わないものがあるが、重複して解答してよいのか設問に第2問のように指示がない。各解答は、1再帰代名詞4格、2分離動詞の前つづり、32格支配の前置詞、4動詞の過去分詞、5人称代名詞3格、6人称代名詞3格、7動詞の不定詞である。特に2の前にhabeがあることから2に4格目的語や過去分詞が入ると判断した受験者が多かったようだ。2vorだけ提示されると1つの完結した単語、この場合は前置詞と判断し、分離動詞の前つづりとは思わずらい。

問2 設問文に「適当なもの」とあるがここまで文法用語を避ける必要があるのか。せめて教科書で用いられている「適切な変化」や「適切な語尾」と問うことはできないのだろうか。正答するには文脈とは関わりなく、(ア)前置詞 mit の支配格, Studium の性, (イ)前置詞 seit の支配格, Zeit の性, (ウ)前置詞 für の支配格, Bewerbung の性, (エ)前置詞 zu の支配格, 形容詞の変化をそれぞれ知識として持っていればよい。

第2問 以前からある出題形式だが、1問減った。与えられた語を空所に当てはめ、文を完成させる出題。不要な選択肢が1つあり、熟語的表現等の知識を問う出題となっている。

問1 「Ich bin mir sicher, dass～」という口語的な表現を知っているかは学習環境に左右される可能性もある。加えて副文を2つ重ねた2つ目の従属接続詞が問われている。

問2 前半では「et⁴ um⁴ bitten」と zu 不定詞句の語順と従属接続詞 solange を使った副文内の語順が問われている。solange を授業で扱った記憶は最近ない。

問3 与えられた「にもかかわらず」という日本語を参考に、従属接続詞を使うのか、前置詞を使うのか判断し、動詞の位置を考える。動詞の位置が明確になっておらず、Maßnahmen の後ろにも2格の der Regierung を置かなければならずやや難しい。2格支配の前置詞 trotz は問2の solange と同様に教科書で扱われることは少なくなってきた。

第3問 一連の比較的長い会話等を読み、設問に答える。会話の間に手紙やスマホの画面に示されたドイツ語で書かれた情報が挟まれており、場面の説明文もドイツ語で書かれている。使用語彙はそこまで難しくはないが、決まった言い回しが複数あり、それについても設問がある。高額な賞金に当選したという場面から始まり、懸賞に応募した確証がなく違和感を持ちながら読み進めることになる。

問1 18 の前後の対話から「Warum nicht」を選択する。消去法でも判断可。

問2 下線部⑱「Was ist (mit³) los?」の言い換えを選ぶ。他の選択肢と比べると正答は②であるが、「どうしたの?」という驚きを「君たちのことを理解できない」だと読み替えられるのか。

問3 対話を読み、4人の希望について最低2人の希望する語が読み取れば正答②に至る。

問4 「(nicht) in Frage kommen」の意図を読み取る。個々の単語自体は難しくはないが、組み合わせて文になったときにそのイメージが湧くかどうか。正答④erlauben はやや難の語彙。

問5 スマホと会話の中の事柄を組み合わせる。出題形式は良いが、本文が KI-App の提案から次の会話へと移っているので、設問文も本文の流れと同様に、例えば「KI-App で提案している内容のうち、会話の中で話題になっている番号の組合せ…」等の方が理解しやすいのではない。

問6 問3のメモと KI-App 以降の会話とが一致しているかどうかを確認する。

問7 ドイツ語の設問であるが、ドイツ語の表現に配慮がなされている。正答①⑤を選ぶのは内容理解ができていればそこまで難しくはない。⑤によって obwohl が従属接続詞であることが分かり、第2問問3の一助となる。

第4問 インタビューを読み、内容をメモに置き換える等新しい出題が含まれる。テーマは「水」だが、体内の水分、飲料水、入浴の歴史と効能などに渡り登場人物3人の発言内容を整理する必要がある。注)もあるが本文中の語 heilen, Heil-などに加え見慣れない文法が設問に関わるなど難しい印象を受ける。

問1 メモを読み設問の単位に着目すると入れる数値がある程度予想できる。

問2 メモにある下線部㉗Körperflüssigkeiten の説明が「, welche Nährstoffe」以下にあることを理解する必要がある。関係代名詞 welch-は今の教科書で目にすることはほぼなく、受

験者が疑問詞と間違える可能性が高い。Nährstoffe を含む選択肢のドイツ語も難しい語が多い難問。

問3 メモ28に入れる語句を選ぶ。選択肢の語彙は難。verfahren を Methode に言い換えられるか。

問4 対話にある語彙の言い換えをメモ29～31に入れる。29は本文中の Kaltwasserkuren (Kur の複数 Kuren) が難語。Wasserkuren を含む3つの選択肢にある動詞の意味を頼りに79を消去して正答3に至ることは可能か。30は本文の benutzen と verwenden の言い換え。benutzen に比べて verwenden を目にする機会が減ってきた。31は、本文と選択肢が同じ表現となっている。

問5 本文内容の理解を問う出題。124に2格, 1345には過去形が用いられるなど語彙も難しい。Gründung や Kuren などの難語が正答の選択肢にあり2つとも正答するのは難しいか。

第5問 比較的長い文を読み、図の情報を統合して問いに答える。「食糧問題」は身近なテーマだが、ドイツ滞在歴が内容理解に影響を与える。Ernähr-の合成語が第4問と同じキーワードの1つになっている。

問1 下線部35の前の導入部分を理解する出題。平易なドイツ語で言い換えもまとめられている。

問2 下線部35の Transparenz は難しい。選択肢は全て形容詞 transparent を用いた言い換えとなっており、意味が分からないまま解答している可能性もある。

問3 選択肢の語は難度が高いので、選択肢中の数を表す表現と図にある語とを突き合わせる。

問4 本文に照らして適切なものを選ぶ。第二段落を精読することで正答1を選択できる。ここにも2格が使われている。正答以外の選択肢は本文中に記載のない箇所がある。

問5 図と内容とを2つ正しく選ぶのは難しい。Buchstabenskala, Stufen や Tierhaltung などは難語。本文中の Tierhaltung と図の Haltungsform が類似していると推測できれば5を選ぶか。

問6 選択肢の語彙は難しいが、1Geld, 2Kritik, 3Geschichte は本文に書かれている語ではないので、消去法で4を選ぶかもしれない。

第6問 色（特に白と黒）の受け止め方の違いについて書かれた比較的長い文章からの出題。本文に挿絵があり本文理解の助けにはなるが、使用語彙や言い回しが難しいと感じる。

問1 第4問問2に記載したように、ここでも3に関係代名詞 welcher が用いられており理解を難しくしている。第一段落の後半部分と第二段落前半を読み取る。第4問の Antike が再出。

問2 下線部42が指している第二段落後半以降に記載されている歴史の流れを読み取る。

問3 本文中の vor³ Angst と vor³ fürchten の言い換え、Schornsteinfeger のイメージが読み取れなかったなど、迷ったかもしれない。他の設問にある Abergläubischen は注の語である。

問4 下線部45の前から判断可能。interpretieren や Interpretation はやや難の語。

問5 本文全体を再度精読し、言い換えられている選択肢の表現が本文中の表現と同じであることを確かめなければならない。本文、選択肢ともに難しく、正答を2つ選ぶのは難しい。

問6 本文の大まかなテーマが読み取れていれば正答3を選ぶのは難しくはない。

3 分量・程度

昨年度の共通テストと使用語数はほぼ変わらないが、使用語彙の難度が上がり、読みにくさや取り組みにくさが増した結果、分量が増したように感じられる。共通テスト『英語』での問題設定レ

ベル及び使用語彙は CEFR A1～B1 の範囲とされている。ドイツ語も英語に準拠するのが原則ではあるが、到達すべきレベルを B1 と設定することには議論の余地があるのではないか。

4 表 現・形 式

内容・範囲でも述べたが、共通テスト『ドイツ語』にはリスニングの設定がなく、受験者にアクセントや母音の長短を身に付ける意識を持たせるためにも発音に関する出題をしてほしい。今回の試験では全体的に、語彙の難度が高いためにその知識がなければ思考しても正答には至りづらく、加えて難度の高い語彙が設問に関わるところに繰り返し使われ解答を難しくしている。仮に正答を選べていても、理解しているのか分からない。また、第1問は文脈を把握し理解度を測るような設問に見えたが、実際にはかなり細かな文法と語彙の知識が求められていた。

今回の試験では、問題全体を通じて合成語が多く用いられている印象を受けた。知っている語同士を組み合わせた合成語であっても、受験者にとっては未知の語になる可能性は高い。

5 ま と め（総括的な評価）

次年度も共通テスト『ドイツ語』は実施される予定であるが、少子化や学習者数の減少を鑑みると継続的な実施については議論の対象となるかもしれない。英語を学んだ上で、第2外国語も学ぶ生徒が尊重され、大学入試や大学での学びへとつながっていくような仕組みが望まれる。ただ、教員志望者が激減している中で、急激に第2外国語学習者が増えたとしても、対応する「教員」の数と質を残念ながら保証できない。教育には手間とお金がかかるため、中学校・高等学校・大学と関係部署との連携・協力が不可欠である。細かい点をいろいろ述べさせていただいたが、共通テスト『ドイツ語』の問題作成に対し、多くの時間と手間をかけてくださっている問題作成委員、大学入試センターの方々に感謝申し上げます。